

浜崎グループの思い

僕は、この1年間ずっと「浜崎」の人達とふれあいながら、たくさんのあたたかい「ころ」を見つけてきました。思えば1年間は、わけも分からないものばかり写真に撮っていたけれど今はたった1枚の写真からでも無限の思いが人に伝えられるようになりました。

とくに3学期は、「浜崎ひなの会」を通して浜崎の人達のあたたかさを実感しました。「浜崎」は小さい町かもしれないけど、その「浜崎」を活気付けようとしている人達に感動しました。取材中に町で浜崎の人と出会った時気軽に声をかけて下さったことが何よりの支えでした。そういう日ごろの生活からも、あたたかさを感じる日々でした。

井町

僕は、この一年間二人の自分に出会いました。自分の気持ちをふれあった人や、萩の人にはずかしがらず自分の思いや気持ちを伝えられる自分に出会えることができました。もう一人の自分とは、僕は感動ができなかったけど、一年間総合を通してころがあったかくなつたし、感動がたくさんできる自分に出会いました。浜崎のおばあちゃんを見ていると、元気が出てきたし笑顔になれたから、自分のころが成長しました。

神田

この1年間浜崎を中心とした写真を撮りました。取材をしてきて浜崎の人とたくさんふれあいました。だんだん、浜崎の人と仲良くなり色々な質問を受けてくださいました。自分のころの中で萩の人のあたたかさを感じられました。ただ写真を撮っているのではなく、人とのふれあいや、コミュニケーションを大切に取材をして、写真を撮っていました。改めて、ふれあいが大切だと思ったし人とのつながりが、深まりました。

瀧

この一年間「浜崎」の人と出会ってから、ころの中にあたたかいものをもらいました。

「浜崎」の人は、とっても元気があって取材に行くとき私たちを出迎えてくれました。こっちまで元気が出てきて、ふれあいをするところを通して会話することは、いいなあと思いました。これからも、「浜崎」は今のありのままであってほしいです。「浜崎」は私の誇りです。

棕

戻る

見に来てくださって

ありがとう

ございました。

浜崎グループ



この写真は「ひなの会」といって、浜崎のおばあちゃんたちが月に一回集まって昔の遊びをして、楽しく遊ぶ会です。この写真を見ていると、元気になるしえがおにもなります。おばあちゃんだけど、子供のように楽しく元気に遊んでいてすごいと思いました。えがおは、大切だと感じました。



この写真は、浜崎(萩にある港町)で、行われる「ひなの会」に伺い、取材させていただいた時の写真です。

ひなの会では、浜崎のおばあちゃんたちが、月に1回集まり、会食や、ゲームなどをして楽しんでいます。

この写真を見ていると、おばあちゃんたちのえがおから、浜崎のあたたかさが伝わってきます。そして、自分もえがおになってきます。



この写真は、浜崎の本通りです。ふだんは、私たちが見れない光景です。ありの気持ちになって撮ってみました。見てのとおり人通りが少ないけれど、浜崎の人と、取材を一緒につづけてきて、私は浜崎をあたたかい感じがするので好きです。



この写真は、浜崎の道の中の一番広い道です。昔は今の道の半分しかありませんでした。人に聞くまでは道のことは全然分からなくて、この道はもともと広いんだと思っていました。でも、竹工場は、火事になり焼けてしまいました。せまい道が、火事になって広くなりました。竹工場が火事になったのはいやだけど道が広くなったほうがいいです。